

平成30年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	3 - 1 - 5
事務事業名	消防施設整備事業			担当課係	消防総務課
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	
	基本目標	1. 安全・安心なまちづくり		内線等	
	施策	1-1 安全・安心な日常生活の確保		E-mail	
	基本方針	1-1-2 消防力の強化			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	9	消防費	項	1 消防費
	目	3	消防施設	事業	1 消防施設整備事業
開始年度	平成 21	年度	根拠法令・要綱等	消防車両更新10ヵ年計画	

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 非常備消防力の充実及び強化
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 老朽化した消防団詰所及び消防車両の整備をし、防災力の強化に努める。
事業の内容 （内容・手法等）	（こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 第9分団（日開野地区）詰所を移転新築し、災害時の活動拠点として整備する。また、平成7年式の第5分団消防ポンプ自動車を更新配備し消防団としての機能強化を図る。また、増加する救急事案に適切に対応するため、2台配備している高規格救急自動車のうち1台を更新するとともに、最新式の高度救命処置用資器材を整備する。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 現在の第9分団（日開野地区）詰所は、昭和50年に建てられており、老朽化等により防災拠点としては不十分であり、地元協議会や消防後援会より新築移転の要望があった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名			指標の説明			指標化できない成果		
	消防施設数（消防車両含む）			計画数に対する完了数					
	単位	H29	H30	R1	R2	目標年度 目標値			
消防施設数（消防車両含む）	目標	1	3	1	1		H30年度、目標3施設の内訳 ①第9分団詰所 ②第5分団消防ポンプ自動車 ③救急車		
	実績	1	2						
	達成度	100.0%	66.7%						
活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H29	H30	R1	R2	指標の説明	
	消防分団詰所	棟	計画			1			
			実績						
	非常備消防車両	台	計画		1	1	1	1	
			実績		1	1			
	常備消防車両	台	計画			1			
実績					1				
			計画						
			実績						

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		29年度決算	30年度決算	30年度予算	R1年度予算
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	17,896,799	46,332,529	46,928,000
		財源内訳			
		国県支出金			
		地方債	10,400,000	31,700,000	
		利用者負担			
	B 一般財源	7,496,799	14,632,529		
	人件費 ①×②	843,814	1,281,862		
	職員平均人件費①	8,438,143	8,545,749		
	従事した割合②/人	0.10	0.15		
	A + B	18,740,613	47,614,391		
単位コスト	活動指標の説明	更新計画による実績	更新計画による実績		備考
	活動指標1単位当たりコスト	18,740,613	47,614,391		平成29年4月1日現在 人口38,817人
	市民一人あたりのコスト	483	1,248		平成30年4月1日現在 人口38,156人

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 詰所新改築に係る近隣市町村の動向としては、耐用年数等を条例で定め中长期的な改築計画により整備している。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 安全なまちづくりの拠点としての消防団詰所の改築は地域住民からも多くの期待が寄せられており、耐震化されていない詰所を消防団、地元協議会等と協議し計画的に整備していかなければならない。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	昨今、地域住民とより密着した活動をしている消防団に対する期待は益々大きくなっており、施設、装備の充実は災害時の被害を最小限に抑えるために必要である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくりの提供は、地方自治の基本的な政策要素であり災害に強いまちづくりの推進という施策は市の対応として必然的なものである。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	緊急防災減災事業債や外部団体からの寄贈により整備することができたが、今後においても、より有利な補助金、助成金を活用することが望ましい。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	いつ起こるかかわからない災害に対し、できる限り早急に整備しなければならないが、施設、車両の更新は、予算が多額であり、消防分団の統廃合も検討し、計画的に事業を執行する必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	第9分団詰所建設については、設計変更等もあり年度内に完成することができず次年度繰越事業とした。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	詰所の新改築については、事前に地域の要望の把握に努めるとともに、市関係部局とも十分に協議する必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2	3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	66	2	消防車両の更新は計画的に執行できたが、消防分団詰所建設については工期を延長したため年度内に完了することができなかった。今後については、整備した施設、車両を使用した訓練を実施し、消防力の強化に努めなければならない。
	4 終期設定し終了	20 ~ 39 点			
	5 完了・休止・廃止	19 点 以下			

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2	3 改善・効率化し継続	消防団詰所は、地域の防災拠点として、また団員の士気の高揚と地域づくりの場としての役割を担っている。今後については、災害時、第一線で任務を遂行しなければならない伝統ある消防団が衰退しないように人員、装備、施設すべてにおいて計画的に整備していかなければならない。また、消防車両更新計画についても時代に即したものに適宜改正し、効果的な車両運用ができるよう努める必要がある。	
	4 終期設定し終了		
	5 完了・休止・廃止		